

提案1 題材デザインシートの作成 (過去のシートを、新学習指導要領の内容に準拠させて改編しています。)

- ① 今回の研究主題に関わる題材を設定してください。
- ② 学習目標(はぐみたい資質や能力)は、その題材で該当する項目に○(プルダウン)を入力してください。
 ※留意点として、
 ・A表現とB鑑賞の関連が図れているか確認してください。
 ・題材においてどのような造形的視点をはたらかせたり意識させたりするのか、共通事項の内容を適切に位置付けてください。
 ・年計アーカイブの表記に合わせて、主に下線部などを題材の内容にあった具体的な表記に変更してください。
- ③ 指導計画を立ててください。
 ・評価の観点はその項目に○(プルダウン)を入力してください。
 ・評価の方法はその内容をプルダウンのリストから選んで入力してください。
 なお、該当するものがリストにない場合は、直接テキスト入力してください。

①題材名の表記で 気を付けたいこと

再現ではなく表現へ
描くだけでなく発想や構想を大切にしたい題材名と指導の手立て
▲「自画像」
『〇〇な私を描こう』

令和6年度中教研岡山大会に向けた研究
題材設定デザインシート(記入例) 2023.5~

「ミッション」	『生徒が「学び」や「成長」を実感できる美術教育の実現』								
研究主題	『造形の働きについて実感的に理解し、主体的に創造活動に取り組む生徒の育成』								
内容	A 表現 ア (絵や彫刻)	A 表現 イ (デザインや工芸)	○	B 鑑賞 ア (美術作品など)	○	B 鑑賞 イ (美術の働きや美術文化)	○		
題材	の魅力や効果を実感しよう。(①編み込み技法による配色や模様を工夫を通して②グラデーションの効果を活かす) 学年 1								
学習目標(はぐみたい資質能力)									
共通事項	ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解することができる。		イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解することができる。						
	○	ア 色彩の色味や明るさ、鮮やかさを捉える。	○	ア 造形的な特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉える。					
	○	イ 材料の性質や質感を捉える。	○	イ 造形的な特徴などを基に、作風や様式などの文化的な視点で捉える。					
	○	ウ 形や色彩、材料、光などから感じる優しさや楽しさなどを捉える。	○						
	○	エ 形や色彩などの組合せによる構成の美しさを捉える。	○						
○	オ 余白や空間の効果、立体感や遠近感、量感や動勢などを捉える。	○							
創造的な技能	ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して								
	○	ア 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表現することができる。	○	ア 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表現することができる。					
	○	イ 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見直しをもって表現することができる。	○	イ 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見直しをもって表現することができる。					
	第1学年								
	第2・3学年								
思考力	ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して								
	○	ア 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。	○	ア 対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化や省略、造形、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。					
	○	イ 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して	○	イ 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して					
	○	ウ 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容から主題を生み出し、分かりやすさや美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ることができる。	○	ウ 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果や美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練ることができる。					
	○	エ 使う目的や条件などを基に、使用する者の気持ち、材料などから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ることができる。	○	エ 使う目的や条件などを基に、使用する者の立場、社会との関わり、機能やユーザビリティなどから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練ることができる。					
鑑賞の能力	ア 美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して								
	○	ア 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。	○	ア 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。					
	○	イ 目的や機能との調和のとれた美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。	○	イ 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。					
	イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動を通して								
	○	ア 身の回りや身近な自然物や人工物の形や色彩、材料などの造形的な美しさを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。	○	ア 身近な環境の中に見られる造形的な美しさを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めることができる。					
○	イ 身近な地域や日本及び諸外国の文化遺産などのよさや美しさを感じ取り、美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。	○	イ 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特徴などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り、愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付く。美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めることができる。						
○	態度表現 美術の創造活動の喜びを味わい、美しさを対象の美しさやよさなどを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表現したりする表現の学習活動に取り組もうとする。	○	態度鑑賞 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとする。						
○	態度鑑賞 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとする。	○							
次	時	学習活動			評価の観点			評価の方法	
1	1	色のはたらかしを捉え、色の性質を理解する			■	■	■	■	ワークシート 観察
2	2	色彩を整理しながら、仕組みを理解する			■	■	■	■	ワークシート 観察
2	1	編み込み技法を身に付け配色の効果を感じ取る①(2色)			■	■	■	■	作品 観察
2	2	編み込み技法を身に付け配色の効果を感じ取る②(3色以上)			■	■	■	■	作品 観察
3	3	編み込み技法を生かす① (季節のイメージが伝わるように配色や模様を工夫する)			■	■	■	■	作品 観察
4	4	編み込み技法を生かす② (季節のイメージが伝わるように配色や模様を工夫する)			○	○	○	○	作品 ワークシート
3	1~4	グラデーションの効果を活かして立体感を表そう			■	■	■	■	ワークシート 観察
4	1	相互鑑賞を行い色彩のはたらかしを実感する			○	○	○	○	ワークシート 観察
<ul style="list-style-type: none"> ・「指導に生かす評価」は、資質や能力が順調に育成されているかを見取り、必要に応じて指導の改善を図るために行います。 ・「記録に残す評価」は、その単元を通して、資質・能力が育成されているかを見取るために行います。「記録を残す評価」を行うまでに、十分指導しておくことが重要です。 									

③指導計画

・学習活動はどのようなことをねらいとする学習活動なのか分かるように。
 ・評価は、どの学習活動の段階で、どの観点で、どのような方法で評価を行うのか分かるように

○
■
1
2
3

A 表現

B 鑑賞

観察
アイディアスケッチ
ワークシート
作品

○
■